



子どもの思い

～赤ちゃんだって、思いはあるのです～

新年あけましておめでとうございます
 昨年5月にコロナも5類となり、園での保育内容も行事の在り方もほとんどコロナ前に戻すことができました。すいこうは、コロナ禍であってもその時々で、できることは行ってまいりましたが、夏祭り、運動会、バザーなど人数制限もなく、新園舎で初めて本格的に行うのですからどうしても皆さんに楽しんでいただけるか職員間で意見を出し合いながら開催いたしました。開催するにあたって大切にできたことは、子どもたちの「こんなことがしたい」などといった思いがしっかり取り入れられているかということです。日ごろの保育もその延長線上にある行事も子ども中心となっていて、子どもたちの生き生きとした笑顔が見られなくてはなりません。そういう思いで日々の保育に取り組み、行事を開催いたしました。行き届かないこともあったかと思いますが、保護者の皆さんの「楽しかったね」とか「子どもたちの笑顔がよかった」などと嬉しいご意見をいただき、子どもを真ん中にした保育を自然と行うことができ、保護者の皆さんに受け入れていただけていることを嬉しく思っているところです。

すいこうの職員は、いつも子どもたちの思いに耳を傾け、その思いに答えていくことを大切にしていますが、それは大きくなって、言葉に出して伝えられるお子さんだけではありません。赤ちゃんたちにもちゃんと自分の思いはあるのです。毎朝、出席人数の確認のため全クラスを回っています。0歳クラスのごあら組さんに入って、一人ひとりの名まえを呼ぶと、「はーい」と手を挙げてお返事をしてくれる赤ちゃんたち。でもお返事のできないSくんは、じっとわたしを見つめています。「Sくん、元気に来てくれてるね」と声をかけると、ニコッと笑ってくれます。Rくんは、名まえを呼んでいる私のひざにちょこんと座って、「ぼく、来てるよ」と知らせてくれているようです。そこには言葉はありませんが、私には、赤ちゃんたちの心の声が聞こえてくるような気がします。別の場面では、Aくんが給食の用意をしていることに気づき、パーテーションを自分で動かして、食事スペースに入り、椅子に座ろうとして

いました。担任が「おなかすいたんだね。早く食べたいね。」というと、何度も頷いていました。ちゃんと自分の思いがあり、それを行動に移して伝えようとしているのです。担任は、赤ちゃんたちの言葉には出せない思いをしっかりと受け止め、「ちょっぴり早いけど、みんなより先に食べようか」と丁寧に言葉を添えて応えています。おむつ交換の際も「おしっこ出てるかな。おむつ替えてもいい？」と声をかけ、「気持ちよくなったね」などと、赤ちゃんの気持ちを代弁して話しかけています。

また、年少さんの担任が「今年の子どもたちは、自分たちのやりたいことをしっかり持っていて、〇〇がやりたいとか、〇〇をして遊びたいと言葉にして伝えてくれるんです。」と、自慢していました。そういえば、年少さんの運動会のダンスを始めたころは、みんな自分の振り付けがいいと思っているので、ばらばらでした。でも、みんな笑顔でしかも自信たっぷりに踊っていたことを思い出しました。日ごろから子どもたちのつぶやきをしっかり聞き、やりたいことが実現できる環境を整えてきたから、子どもたちは担任を信頼して、やりたいことや思いを言葉に出せているのだと思っています。それは、年少さんのクラスだけではなく、赤ちゃんの頃から一人ひとりの思いに心をはせ、片言の言葉を発したり、「いやだいやだ」を連発する時期に、しっかり耳を傾けて「〇〇したかったんだね。」と丁寧に答えてあげてことを繰り返してきたからなのです。ややもすれば、食事の場面では「みんなで一緒に食べようね」などと、つつい大人の都合のよい言葉をかけてしまいがちですが、ご家庭でも思い当たることはありませんか。赤ちゃんや子どもたちに最も近くにいる私たち大人が、一番に心と心で会話ができ、思いを汲み取ってあげられる存在でありたいものです。

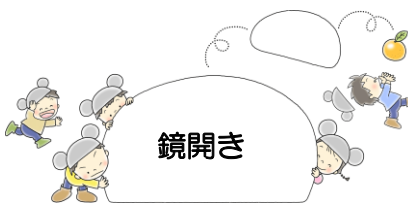
今月は、3歳児さん、2月は、4.5歳児さんの生活発表会があります。一人ひとりが、セリフや表現方法を自分たちで考えて楽しく取り組み、保護者の皆さんに見ていただくことを楽しみにしています。しっかり褒めて、応援してあげてください。

園長 上原玲子

ある時、神様が動物たちを集めて、「お正月の朝、早く来たものから12番目の者をその年の大将とする」と、言いました。猫は、うっかりしていたので、ねずみに尋ねると、ねずみはわざと、次の日を伝えました。ねずみが牛のところに行くと、牛は、「歩くのがゆっくりだから早く出かけよう」というので、ねずみは牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の御殿の門まで来ると、ねずみは牛の背中から飛び降りて「私が一番！」とちゃっかり言いました。そして牛が2番。次々とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししと順番に入り、その年の干支にしてもらいました。

猫はというと、次の日に行っても誰もいないので、門番に尋ねると、「顔を洗って出直してこい！」と言われました。猫が顔を洗うしぐさをするようになり、ねずみを追いかけるのは、この時からだそうです。



鏡開き

1月11日は、鏡開きです。

お正月にお供えしたおもちを割り、おしるこなどにさせていただきます。おもちを割るときに、一年の健康をお祈りすると元気に過ごせると言われています。園児の健やかな成長を願って、園でも11日には、おやつにおしるこをいただきます。

七草粥

お正月を過ぎて、7日の朝食に七種類の野菜を入れた粥を食べます。早春の野山に咲く若草を食べることによって、自然界から新たな生命力を得ることができ、無病息災で長生きできるといわれています。

また、七草には、消化を良くする成分やビタミンCが含まれているので、お正月のご馳走で弱り気味の胃を少し休めようという知恵から始まったともいわれています。

春の七草って？

- せり・なすな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ



めざせ 納豆集団



東京大学名誉教授の秋田喜代美先生が、以前教育新聞に『納豆集団と豆腐集団』という見出しでコラムを掲載されていました。

その内容は、「納豆は、一粒一粒の形がしっかりしていて、お互いに絡み合い、粘りや味を出している。豆腐は、色も形もきれいで口当たりもよいが、型の中にはめられ、元の豆は押しつぶされて形は全く見えなくなっている。」といったものでした。

『納豆集団』とは、まさにすいこうの子どもたち、すいこうの保育を表現している言葉だと思います。一人ひとりが様々な個性を十分発揮しながらも友だちや周りの人たちと関わりあって、それぞれがいい味を出しているのです。すいこうは、最高においしい納豆集団でありたいと願っています。